

朝倉市 自主防災マップ

河川水位の危険度レベルと防災情報

★危険度レベルによる自治体や住民に求める行動

逃げ遅れた住民の救援などを行います。

住民は、避難行動を直ちに完了し、避難していない住民は、直ちに避難行動に移りましょう。

避難指示相当

住民は、避難を判断する段階です。避難に関する情報を注意してください。

避難準備・高齢者等避難開始相当

自治体は、避難準備情報の発令を判断する段階です。水防団（消防団）は、避難行動の準備を行う段階です。

水防団（消防団）は、水防活動を行うため待機する段階です。

計画水位高 はん濫危険水位

避難判断水位

はん濫注意水位

消防回団機水位

ふだんの水位

河川敷

雨の降り方と強さ

1時間雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある

※今いる場所で雨が降っていないくとも、周辺や山間部で大雨が降っていたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、急な河川の増水や局地的な大雨が降るおそれがあるため、気象情報をよく確認してください。

土砂災害の種類 土石流は流れるスピードが速いため、土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。

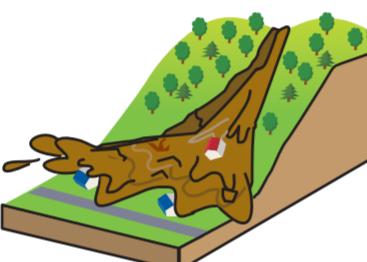
急傾斜地崩壊（かけ崩れ）

かけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。瞬時に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。



土石流

土石流は、谷筋で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合って流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。



地すべり

地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、発生すると広い範囲で道路や建物に被害をもたらします。



土砂災害の前触れには下記のような現象があります

△斜面にひび割れ・膨らみ等の変形がある

△斜面から水が湧き出している

△変な土のにおいかぐする

△木立が不ぞろいになる

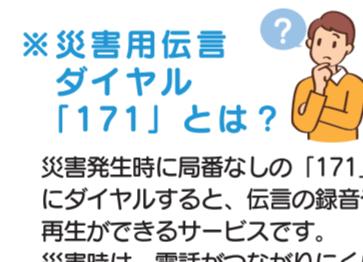
△斜面から石ころが落ちる

△沢の水が濁ったり、水量が急に減る

△井戸の水が濁る

△山鳴りがする

災害時の緊急連絡先



ライフライン

電 气	九州電力（株）日本営業所	0120-639-461
水道・下水道	朝倉市役所 上下水道課	0946-22-1111
電 話	NTT西日本（株）	113または0120-444-113
防災行政無線	防災行政無線テレフォンサービス	050-5536-2944

メールなどからの情報



福岡県が提供するスマートフォンアプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」は、防災情報配信ツール「防災メール・まもるくん」の強化版です。気象や避難情報等が容易に入手できます。

災害の危険度を表示 災害の危険度を表示
福岡県が提供する防災情報などをメール配信システムです。



防災メール・まもるくん

福岡県が提供する防災情報などをメール配信システムです。

CyberConnect2 Co., Ltd.
登録方法
①空メール送信... mamoru@bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp
②HPから登録... http://www.bousaimobile.pref.fukuoka.lg/jp/

★緊急速報メール・エアーメール

気象庁が配信する情報、市が配信する避難情報を、特定地域内のスマートフォン・携帯端末に対して一斉配信します。観光や仕事、一時的に滞在している人も受信できます。
(登録不要、受信料無料ですが、受信設定については各携帯電話会社Webサイトをご確認ください。)



情報の入手先



◇朝倉市ハザードマップ（Web版ハザードマップ、避難支援マップ）
朝倉市ハザードマップ
<https://www.city.asakura.lg.jp/www/contents/1612779624117/index.html>



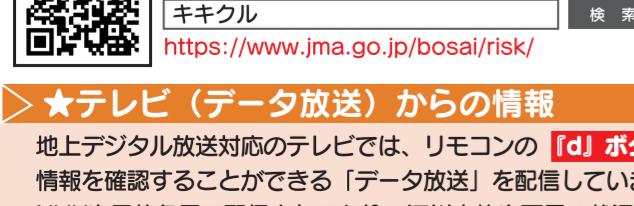
◇朝倉市防災重点農業用ため池ハザードマップ
朝倉市ため池ハザードマップ
<https://www.city.asakura.lg.jp/www/contents/1622695049697/index.html>



◇福岡管区気象台
福岡管区気象台
<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>



◇高解像度降水ナウキャスト
高解像度降水ナウキャスト
<https://www.jma.go.jp/jp/highresradar/>



◇キキル（危険度分布）
キキル
<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>



◇国土交通省 川の防災情報
川の防災情報
<http://www.river.go.jp/>

★テレビ（データ放送）からの情報

地上デジタル放送対応のテレビでは、リモコンの「dボタン」を押すことで天気予報や災害に関する情報を確認することができる「データ放送」を配信しています。
NHKや民放各局で配信されており、河川水位や雨量の状況も知ることができます。



警戒レベルと避難行動

避難情報等に加えて、住民が情報の意味を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルを提供し、るべき行動を明確化しています。令和3年5月より、避難勧告はなくなり、警戒レベル4の避難指示で「必ず避難」です。警戒レベルに応じて、適切な避難行動をとってください。

朝倉市が発令	警戒レベル	防災気象情報（気象庁が発表）	るべき行動
緊急安全確保	警戒レベル 5	大雨特別警報	すでに災害が発生している状況です 何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。 命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。
避難指示	警戒レベル 4	土砂災害警戒情報	いますぐ安全な場所へ全員避難 災害が想定されている区域等では、朝倉市や周辺市町村からの避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されてもキックル（危険度分布）や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をしてください。
高齢者等避難	警戒レベル 3	大雨警報・洪水警報	高齢者や要介護者等は避難 高齢者、障がいのある方等、避難に時間のかかる方とその支援者は避難を開始しましょう。その他の方は、避難の準備を整えましょう。
	警戒レベル 2	大雨注意報・洪水注意報等	ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう 災害の危険性のある区域、避難場所、避難経路、避難のタイミングを確認してください。
	警戒レベル 1	早期注意報	最新の防災気象情報などを確認しましょう 災害への心構えを高めてください。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動（水平避難）だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。



避難のポイント

■速やかに避難しましょう	■災害用伝言板・SNSで連絡する	■一人暮らしの高齢者などには気配りを
避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。 避難の際には警察・消防などに連絡手段を複数用意しましょう。熊本地震では、SNSは有効でした。	電話が通じなくなることを想定し、SNSなどの連絡手段を複数用意しましょう。熊本地震では、SNSは有効でした。	近所に一人暮らしの高齢者や病気の人のがいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。
■避難する前に	■車での避難は控ええて	■耳の不自由な人
電気のブレーカーを落とし、ガスなどの元栓を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。	車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。特別な場合を除き徒步で避難しましょう。	声をかけ、情報を伝える。 指導する場合は、杖を持つた方の手には触れず、ひののあたりを軽く持つてもらい、半歩前をゆっくり歩く。
■目的の不自由な人	■車での利用している人	■耳の不自由な人
声をかけ、情報を伝える。 指導する場合は、杖を持つた方の手には触れず、ひののあたりを軽く持つてもらい、半歩前をゆっくり歩く。	どのように介助したらいか、本人に確認する。 階段では2段以上が必要。 上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。	話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

災害時に特別な配慮を要する人への支援

高齢者や障がいがある人など、災害時において特に配慮を要する人は、地域のみなさんの支援が必要です。

■高齢者・病気の人	■車いすを利用している人	■耳の不自由な人
△荷負う（または担架、リヤカーなどを利用する）などして安全な場所まで避難する。 △複数の介助者で応対する。	△どのように介助したらいか、本人に確認する。 △階段では2段以上が必要。 △上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。	△話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。 △手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。
■目的の不自由な人	■車での利用している人	■耳の不自由な人
△声をかけ、情報を伝える。 △指導する場合は、杖を持つた方の手には触れず、ひののあたりを軽く		